

記念誌発行にあたって

創立73年・法人化50周年にあたり、皆様と共に活動の軌跡を振り返り、先人の皆様が紡いで来られた地域福祉の絆が未来へと更に大きく広がる事を願って記念誌を発刊するに至りました。これに先立ち昨年10月20日記念式典を開催し終了後には演劇集団タカト様による記念公演も行われ、お越しくございました200名近くの皆様から温かい笑いとエールが送られ、式典に花を添えて頂きました。開催に携わって頂きました全ての皆様に深く感謝を申し上げます。

唯一残念だった事は13年間に亘り、当社協を牽引された森暉夫前会長に式典でお会い出来なかった事であります。療養中と聞いておりましたが、森前会長はまるで式典の終了を見届けたかのように、11月3日、天国へ旅立たれたのであります。誠に無念の極みで、改めて故人の御功績に思いを馳せ、心から御冥福をお祈りしたいと申し上げます。

時計の針は黙っていても時を刻みますが、福祉の時計の針は重く、人のエネルギー無くしては動きません。当社協の昭和・平成・令和三代にわたる今日までの歴史も正に、会員であります町民の皆様の福祉に対する御理解と御協力、更には行政はじめ、共同募金委員会、自治会、民生委員児童委員協議会、各種ボランティア団体、企業等々の皆様、そして、当社協役職員の皆様等、実に多くの方々のエネルギーによって、その重い時計の針が絶え間無く刻まれ動き続けて来たと言えます。参画された全ての皆様に深く敬意と感謝を申し上げます。

昨今、地域を取り巻く福祉の環境は、過去10年間を見ても明らかなように、今後も厳しさを増し、人口減少の流れを受け、福祉サービスを持続する為に必要な人的、物的ボリュームは増加の一途を辿り、生活課題は益々多様化・複雑化し、想定外の状況も予測されるものと考えます。

更に本格的な「少子高齢化・人口減少時代」を迎え2040年を待たず、各分野での労働力不足が広がり、とりわけ福祉分野の人材不足も深刻化し、サービスの提供体制をも揺るがしかねない状況と言われております。

しかし、どんな場面を迎えようとも、地域福祉の時間を止める訳にはいきません。

美幌町民の気質とも言える、あるいは伝統とも言える、思いやりと助け合いのより強い気持ちこそがエネルギーの源であり、お一人お一人の持つその心が集まった地域力こそが唯一の生命線であると信じております。

当社協においても近年の活動を振り返る時、理事による常設委員会の主体的な実践活動、たすけあいチームやボランティアセンターに結集する皆さんの日々の活動、更には、ささえ手くらぶをはじめとする各種ボランティア活動参加への広がり等々に、その一端が表れております。

私達は、この地域コミュニティの力量を信じ、行政とのパートナーシップをより高め、難局に立ち向かって「みんなで参加 みんなでつくる ささえあいのまち 美幌」を皆様と力を合わせ粘り強く進める覚悟でございますので、どうか今後共、当社協の活動に対し温かい御理解と、尚一層の御支援、御協力を賜りますよう心よりお願いを申し上げます。



社会福祉法人
美幌町社会福祉協議会
会長
染 谷 良